

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2874001080 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 本覚寺苑 | | |
| 事業所名 | グル-ブホ-ム みろくの里 | | |
| 所在地 | 兵庫県姫路市花田町加納原田145-7 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年度4月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年6月1日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874001080&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者機構 | | |
| 所在地 | 兵庫県姫路市安田3丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年5月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| 施設内、リビングは天井が高く明るく開放的である。また施設の隣には、保育園があり、子供たちと触れ |
|---|

第三者評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(第三者評価機関記入)

| |
|--|
| 建物中央の吹き抜け部分に共有スペースが設けられ、明るくゆったりとした解放感ある環境の中に、穏やかで安らいだ利用者の笑顔がある。施設内は生活感や季節感を感じさせる工夫が随所にある。リビングの窓からや外の縁台に座れば、近隣ののどかな景観や季節の移り変わりを目にすることができる。日々の生活は、隣接する保育園の園児やデイサービス利用者との交流、仲間同士での散歩等、自由な時間を過ごしている。定期的にプレイアンドトレーニングに参加し、心身の健康増進を図っている。長年、地域に根ずいて活動してきた母体法人の強みを生かし、地域に密着した事業者として、地域の人から求められる地域資源としての立場を築こうと積極的な姿勢がうかがえる。 |
|--|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

| 自己 | 第三者 | 項目 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 寮母室と食堂・玄関に掲示しており、毎朝職員全員で読み上げ、常時携帯し、理念を共有し、認識を深め、実践につなげるようにしている。 | いのち一番・にこにこ2番・質の介護にプロ意識、3つの法人理念に基づき、22年度目標として「真心と笑顔と感謝の、ぬくもり介護」を掲げている。職員は毎朝、唱和し意識付けが図られケアにつなげている。 |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域での行事(盆踊り・祭り・花見等)には参加の声がかかり、積極的に参加している。また2か月に1度の運営推進会議には地域の方に参加して頂き、貴重な意見をいただいたり、緊急時の援助等をお願いしている。最寄り中学校のトライやるウィークの中学生も受け入れている。 | 敷地内に保育所やデイサービス等があり、普段の暮らしの中で、地域の人たちとふれあう機会が多い。今後は併設の地域包括と共に地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合っている。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポーター研修の受け入れ先として実習生を受け入れている。 | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度もたれている運営推進会議では、利用者の家族の方や地域の方の意見また、事業所内での状態等を議題にあげて積極的に話し合い、協力の依頼も行っている。 | 2ヶ月に1回定期開催されている。メンバーは利用者、家族、ボランティアの各代表と地域の知見者となっている。事業所からの報告とともに各メンバーから質問、意見要望が出され、双方向的な会議になっている。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 本年度もグループホームの連絡役員として会の運営に携り、市との調整の機会も増えている。今後もグループホームの現状を伝え保険者との連携をはかっていきたい。 | 市内17事業所が参加するグループホーム連絡会として、事業所や利用者の課題解決や情報提供も含め、7月の定例会には市町担当者の参加要請をする予定である。 |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のマニュアルは作成されておりまた常時職員の目の届くところにあり、他に法人内の研修にて身体拘束について学んでおり、それを実践につなげられるよう取り組んでいる。 | 身体拘束の内容とその弊害については研修等で周知を図っている。日中は錠をかけず、自由な暮らしを支えるよう、見守りの方法を徹底し、出ていく気配を職員が身落とさないようにしている。 |
| 7 | (6) | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の重要性については、マニュアルや法人内研修にて学んでいる。職員間でも、随時、話し合いを持ち、虐待防止に取り組んでいる。 | 今年度から法人全体で虐待防止の指針等が作成され、虐待の防止の徹底に向けた仕組みづくりが整えられている。虐待防止委員会の開催も計画されている。 |
| | | | | メンバーについては自治会関係者や民生委員の参加についても課題として位置づけられている。早急に具体化が図られることを期待する。 日頃から市町担当者と話す機会を見つけ、事業所の近況報告などされてはどうか。また、グループホーム連絡会の役割にあることでもあり、市町担当者に会議の内容を報告するなどされて、積極的に関係性を構築する工夫に期待したい。 |
| | | | | 虐待の防止は人権を護ることを目標とする項目として捉え、不適切ケアについて話し合ったり、職員のストレスマネジメントにも関連する内容として系統的な学習が必要である。取り組みを期待したい。 |

| 自己 | 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度を利用されている方がおられます。再確認の為に、全職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業についての園内研修を取り入れていきたい。今後は、当法人内の地域包括支援センター職員等との連携をはかり、支援とつなげていく。 | 実際、成年後見制度を利用している方があり、後見人との関わりをどうするのか、連携をどのように図るのか、併設の地域包括支援センターと研修会を行い、職員の理解を深める機会となっている。 | 利用者の権利擁護を図る制度として職員はいつでも利用者、家族等に情報提供しアドバイスができることが望まれる。引き続き学び、円滑な活用に結び付ける支援を期待する。 |
| 9 | (8) | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時の契約時項目ひとつひとつ説明し納得の上 署名捺印を押していただいている。金額等の変更時も説明文書を送付し理解と納得を得られるように図っている。 | 家族はややもすると聞き流す傾向も否めないが、理解を確認しながら丁寧に説明している。将来のことを含め不安や疑問点も引き出し、それらに対して十分に説明し、同意を得るようにしている。 | |
| 10 | (9) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置しており 意見や要望を取り入れている。さらに運営推進会議には 利用者と家族が参加されており その際 要望や意見等を聞き、議事に上げ取り組んでいる。 | ご家族には訪問時に声をかけ、状態の報告をする中で問いかけ、何でも言ってもらえるように配慮している。家族会も立ち上げ、今後は家族同士で交流の機会を増やすことも検討中である。 | |
| 11 | (10) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 意見や要望等がある時は 随時 職員会議を開き職員全員の意見を求め 全職員で話し合っている。 | ミーティング、ケースカンファレンス等、随時行い、利用者との関わりの中で生まれる職員の気づき、アイデアを取り入れている。他の事業所に見学に行きたいという要望も実現し、日々のケアに活かしている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の就業状況等は、法人本部内での会議で情報の共有や改善策が検討されています。人事考課を取り入れ賞与に反映させています。職員教育・研修は、職種・経験年数に応じて技術水準・専門資格を明らかにし、法人全体の研修体系の策定に基づきOJT研修、管理者研修等を実施また資格取得のために金銭的支援を行っている。懇親会を年に何度か実施し職員間のコミュニケーションに努めている。有給は、積極的に取得して頂きリフレッシュに努める。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 全職員には、積極的に月1回実施の法人内研修を受けられるように、勤務調整をはかり、中堅職員には施設外研修の参加をしている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会の加入されている近隣のグループホームへの見学や、施設の行事に招待することで、交流の場をもうけている。 | | |

| 自己 | 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-------------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族の方を交え相談の場を設け、本人の望まれている事を把握した上で対応している。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申し込み時に、家族に困っていることや不安なことの要望は記入してもらっているが家族さんの希望があれば、随時、相談等の時間を設け対応している。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 聞き取りによって得た情報により、職員同士も話し合いを行い、必要としている情報の提供が出来るように努めている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に食事や掃除・調理を行い、時には居室に訪問し一緒にお茶を飲んだり散歩をしたり、利用者さんの気持ちを受け入れ対応している。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、利用者の方の状態等を説明するだけでなく、家族さんからの質問や相談の場を随時設け対応している。 | | |
| 20 | (11) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前の近所や同僚の方の面会・外出・手紙のやり取り等本人の希望により、随時、対応している。 | 馴染みの美容室に行き続けている方、元職場の同僚や部下との交流を続けている方、近所の方や友達の訪問など、本人を支えてくれている関係を大切に支援できている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が、利用者の方々の状態を把握し、食事前の声かけや、家事の手伝いを行ってもらうこと等で調整している。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|----|---|--|--|--|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要な方には、随時、連絡や対応が可能である事、必要な情報提供も行うことが出来るように伝えている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (12) | | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 契約時に聞かせていただいた意向に基づき、必要に応じて、その都度聞き取りをし、それが出来ない時は、家族と共に面談を行い、本人が何を望まれているかを考え検討している。 | 利用者の思いや意向を把握する方法のひとつとして、お正月に「今年の願い」として聞いた内容が写真とともに貼りだされている。「満州に行きたい」「島根に帰りたい」「うなぎ丼が食べたい」「お伊勢さんに行ってみたい」「おこわが食べたい」「主人に会いたい」それぞれの思いが語られている。 | 事業所運営10年の実績をふまえ、継続的なケアを支えていく上で生活を支えるためのアセスメントとして、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式の活用について検討し取り組みを期待する。 |
| 24 | | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アンケートなどにより、今までの個々の生活歴を把握し、できるだけ生活の仕方や馴染のある暮らし方等に配慮しつつ、職員と家族とで話し合い、サービスに取り入れたり回想法に使っている。馴染の物品を持ち込むことで、今までの生活習慣を把握し職員とも馴染める環境作りに努める。 | | |
| 25 | | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 基本となる情報を基に、日々の生活の中における利用者、個々の生活リズムを総合的に把握すると共に、身体状況を注意深く観察している。 | | |
| 26 | (13) | | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の希望を中心とし、カンファレンス時には、利用者さんの状態や状況をふまえた上で、必要に応じて本覚寺診療所ドクターにもアドバイス受け介護計画を作成している。 | 月2回、ケアマネとケア担当者によるカンファレンスを行い、問題点、気づきを反映させている。ケアプランについては全員で共有している。 | |
| 27 | | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 特変時には、詳細にケースに記録し、申し送りにて共有している。又月2回のケアカンファレンスにて職員間での話し合いの場ついで介護計画の見直しへとつなげている。 | | |
| 28 | | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 必要に応じて、母体であると特養や包括支援センター、居宅支援センター、小規模多機能への紹介を行い、幅広く柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会の行事(盆踊り・秋祭り等)への参加や校区内の作品展への参加。又、トライやるの受け入れボランティアとの交流の場を多く設けている。 | | |
| 30 | (14) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時には、今までのかかりつけ医院での継続も可能である事を家族や本人に伝えている。又法人内診療所での受診の希望もお聞きし希望される方には書面で同意書も頂いている。 | なじみのあるかかりつけ医への受診が望ましいことを基本方針としつつ、本人と家族の希望と同意によって法人の診療所への転院も可能としている。歯科については家族と協力し通院支援を行っている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療機関との連携をしているので、緊急や急変時の医療行為が必要な場合は本覚寺診療所と連絡・調整し、協働で援助を行っている。 | | |
| 32 | (15) | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者さんが入院中にも、何度か訪問し、状態の確認を行っている。又、担当看護師・家族の方とも随時、退院後の話し合いの場を設けている。診療所ドクターとも受け入れについての準備を行っている。 | 入院時には職員が定期的に見舞うようにし、回復状況の把握に努め、家族とも情報交換している。退院時のカンファレンスには必ず参加し、著しい身体状況低下の場合は併設の特別養護老人ホームへの入所につないでいる。 | |
| 33 | (16) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に終末期ケアについての説明もしている。現在、ほとんどの方からは、同事業所内、特養へ希望をされている。 | 重度化の場合は併設の特別養護老人ホームへの入所につなぐ支援も含め、家族等の意向を踏まえ対応している。これまでに、お一人、家族とともにターミナルケアの経験がある。その家族とは今なお交流が続いている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変事のマニュアルを用意し、随時対応ができるようにしている。1カ月に1回、園内研修もあり勉強会にも必ず参加し実践力に近づけている。 | | |
| 35 | (17) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時のマニュアルを用意し、施設内にはスプリンクラーも設置している。施設内での消防訓練も年2回全職員で実施している。又、避難訓練、避難誘導が円滑に出来るように近隣や地域の方にも声かけしお願いをしている。 | 札幌のグループホーム火災事故の後、抜き打ちで消防署の立入りとマスキの取材があった。スプリンクラーの設置等、設備面も完備され、地域の自治会長も含む連絡網も整備されている。 | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (18) | | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 契約時には個人情報に関して、名前や顔、施設内新聞やインターネット等に掲載の確認を取っている。利用者の方の人格を理解した上で、その日の気分や状態に応じた言葉かけにて対応している。 | 各方面から実習生を受け入れていることから、職員の言葉かけや対応に対して指摘を受けることがある。それらを参考にし、常に研修課題として取り組んでいる。 | |
| 37 | | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者さん個々の状態を把握した上で、本人より訴えて来られない方には、行動や表情等にて察知し、対応するようにしている。 | | |
| 38 | | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人希望時やペースに合わせて、散歩、日光浴やピアノを弾かれたり、食堂やトイレ内にて、歌を歌われておられる。又、居室内にて、他の利用者さんとコーヒーを飲まれ談話され過ごされている。 | | |
| 39 | | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 以前に通われていた、美容院へ白髪染めやパーマをかけに2カ月に1度外出されている方もおられる。又、本人の希望により、訪問散髪時に顔剃りを希望され利用されている。 | | |
| 40 | (19) | | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 契約時、本人の好きな物・嫌いな物を聞きとり、献立にも取り入れている。また、利用者の方の現存在能力を把握した上で、本人の希望に応じ、調理の準備、食事の後かたづけ食器洗い等、自ら進んで行っていただいています。 | 食事の一連の作業を利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。家族からは「役割を持たせて下さっている」と感謝の言葉が寄せられている。ボランティアによる菜園から新鮮な食材が食卓を賑わしている。 | |
| 41 | | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量チェック表にて、主、副食の摂取量を記入し個々の状態に応じて、刻み食やトロミにて提供している。水分量については、こまめに水分補給を行うようにしている。又水分を拒否される方にはお茶等を寒天状にし提供している。随時、特養の栄養管理士に相談し指導を受けている。 | | |
| 42 | | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の方が可能な限り自力で行ってもらい、随時、職員が洗浄後確認させていただき、又自力できない方には、口腔洗浄や義歯洗浄の声かけと見守り、状態に応じては介助にて対応している。 | | |

| 自己 | 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の方の排尿パターンを排尿チェック表にて把握し、状態に応じてトイレ誘導の声かけ、誘導、介助にて対応している。 | 排泄チェック表を使用し、習慣やパターンに応じて声をかけ、トイレへの誘導を促している。オムツを外すよう支援できている。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排尿チェックにて排便の確認を行っている。日中、日光浴や散歩等の軽い運動を働き掛ける以外にも水分量の確保、食事内容、提供の工夫を行い、特に便秘のひどいときには、Drと相談し緩下剤の投与により調整している。 | | |
| 45 | (21) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現在、入浴日は決めているが、本人の希望、ペースに合わせて、また入浴日以外にも対応している。(シャワー浴、足浴)男性職員の介助を嫌がられる方には女性職員が代わって介助にあっている。 | 入浴日は週3回となっているが、毎日、入浴日とすることを検討課題にしている。足浴はいつでも、希望に添って行っている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の生活のリズムを知り、本人の希望や体調に合わせて天気の良い日に、玄関前の椅子にて休息されたり、散歩に出られたりされている。天候のよい日は、出来るだけ布団を干すようにし安眠につなげている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬は間違いの無いように薬ケースに朝、昼、夕と分け保管している。個々の薬については、随時Drにより説明を受け、指示通りの服薬が出来るように援助している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 残存能力を把握し本人の希望により家事仕事(調理、洗濯たたみ等)、散歩、ドライブ、買い物、コーヒーの好きな方では喫茶店に行けるようにし、その人らしい暮らしを支援している。 | | |
| 49 | (22) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望を聞き、買い物や散歩、喫茶店へ出かけられるようにしている。又、墓参りや外食等の訴え時には、家族と調整を図り、出かけられるように支援している。 | 保育園、デイサービス等が隣接する事業所の前で日光浴を兼ね歌を歌ったり、お茶をいただいたり、日常的に戸外で気持ちよく過ごしている。又、散歩仲間同士で散歩にでかけたり、特別養護老人ホームの喫茶に出かけたり、買い物に行ったり、個々に楽しんでいる | 日常的な外出支援に加え、本人の思いに添って懐かしい場所、行きたい場所への外出支援は、その人らしい暮らしを保ち、生きる意欲や自立を促すためにも大切である。積極的な取り組みを期待する。 |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、本人の希望により、「お金を持ちたい」と希望され、お金を所持されて居られます。買い物時や訪問販売(ヤクルト)など、好みの物を自分で支払い、購入されている。 | | |
| 51 | | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 施設玄関前に、公衆電話が設置されており、自ら自由に電話かけられている。又、手紙が届いた際には本人に渡し、送りたい手紙は職員が預かりポストに投函している。 | | |
| 52 | (23) | | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内は、木材を随所に取り入れた造りになっており、暖かみのある家庭的な雰囲気がある。又、四季折々の絵画や置物、花等を適所に配置するように配慮している。 | 吹き抜けの高い天井からは自然の明かりが降り注ぎ、広い空間の中で空気の流れも五感刺激に申し分ない。畳の部屋には仏壇があり、毎朝お参りもできる。生活感や季節感のあるものを活用する工夫が随所に見られ居心地のよい空間になっている。 | |
| 53 | | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者の方向士で自由に過ごせるように、施設内・外 適所にソファや椅子を配置し、対応している。 | | |
| 54 | (24) | | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 契約時、本人と家族さんとの話し合いの上、本人希望の、使い慣れた家具や生活用品を持ち込みされている。(三面鏡・ご主人や家族の写真・ちぎり絵等) | 家族そろって撮った写真、亡き夫の写真、家具など、それぞれの利用者の思い出の品々が持ち込まれ、その人らしく暮らせる部屋となっている。洗面台や収納場所も完備され、落ち着いた居室になっている。 | |
| 55 | | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室やトイレが分からない方には、居室前に飾りをつけ目印にしたり、トイレ前にトイレの表示を貼りわかりやすくしている。足を置く所がほしいと言われる方には、居室ベット横に一部足マットを敷き対応している。 | | |